まじょこのスピリチュアル物語

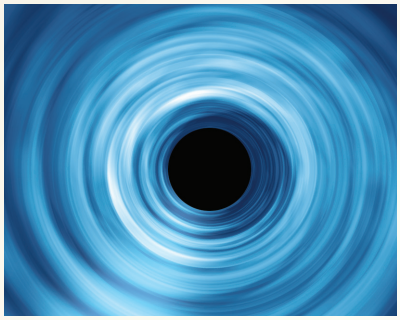
第13話

「で？林檎の虫喰い穴がどうしたんだい？」ウィザットは一旦グラスをコーヒーテーブルに置いて訊ねた。

「さっきも言ったように、ワームホールというのは位相幾何学の分野の考え方で、時空のある一点から別の地点へと続くトンネルの様なもののことじゃ。そのトンネルを通って、お2人さんは時空移動をした可能性がある」「時空移動？時空っていうのは何だい？」「時間と空間のことじゃ。ワシらは時間と空間という概念の中で生きておるんじゃよ」

「概念？」「ワシらは時間は一定に流れているものだ、空間も一定の広がりだと思っておるが、物理学では時間と空間を実体の無い概念として捉えておるんじゃ」老人の言葉にウィザットは眉間に皺を寄せた。

「まず時間についてじゃが、時間というものには実体はない。人々は物事の変化によって、時間が流れたと思う。つまり物事の変化が時間の尺度となっているだけなんじゃよ。例えば、お嬢さんのグラスが空になっていることで、嗚呼、時間が進んだのだなという認識が生まれるが、それが時間そのものの実体ではない」「ん～」ウィザットは唸った。「例えば、今、君が馬を走らせていて、君の隣をもう一頭の馬で同じ速度で併走している人が居た場合、君から見てその人は君の横で静止しているように見えるじゃろ。例え鬣やその人物の髪の毛が風に靡いていても」ウィザットは頷いた。「しかし、別の位置に立っている他の人から見ると、君もその人も速く走っている。しかし、アインシュタインの特殊相対性理論の光速度不変の原理によれば、光の移動だけは馬に乗っていようが、何処に居ようが同じ速度で動いて見える。光だけは常にどういう条件で観察しようとも同じ速度なんじゃ。となれば、速度＝距離÷時間の内、どんな状況でも速度が同じだとすれば、距離や時間が状況により変化する、ということが言える。つまり、距離や時間というものは絶対的ではなく相対的なものであるという考え方じゃ」「ふ～ん」ウィザットはストローでダークブラウンの液体をグルグルと掻き混ぜながらそう言った。



「更に空間というものは質量によって歪む性質があり、質量の大きなものの周囲の空間は極端に歪んでいて、光さえも曲がる。最大限に歪んでいる空間がブラックホールで、ブラックホールとホワイトホールを繋いでいるのがワームホールなんじゃ」

「何だ、虫喰い穴の他にもまだ穴があるのか」「そうじゃ。ブラックホールの存在は既に確認されており、その重力半径に入ったものは光でさえも吸い込まれてしまうんじゃ。ホワイトホールとワームホールは未だ仮説の域だがのう」「それにより、時空移動が起こるんですか？」マジョリアルが言葉を挟む。「恐らく。じゃが今のところは未来には行けても、過去には行けないという話じゃ。そうなるとお2人さんは…いや、そのう…」老人が言い淀むと同時に、ウィザットがグラスの中の液体を勢い良く飲み干した。「お2人さんはどうやらその飲み物が気に入ったようじゃが、お代わりは控えたほうがいいな」と老人は言った。

「え？何でだい？」ウィザットが飲み干して氷だけになったグラスを持ったまま不満そうな顔をした。「その飲み物は糖分が多いんじゃよ。糖分はブドウ糖に分解されて吸収され、活動の為のエナジーとして必要な栄養素ではあるが、過剰摂取をすると身体の中で中性脂肪となって溜まり、メタボの原因ともなるんじゃ。美味しいものは程々が良い。何事もバランスじゃ。人生に於いて一番大切なものはバランスだと言っても過言ではないぞ」そう言って老人は2度頷いた。「え？何と何のバランスだい？」ウィザットは氷を頬張り、ガリガリと噛み砕きながらそう言った。

つづく

チャネリング相談

Q「一年の計は元旦にあり」と言いますが、それをしないと、その年の運気は下がるのですか？

（横浜在住 Kさん）

A この言葉の起源としては、毛利元就が長男に宛てて書いた手紙の中の言葉、「一年の計は春にあり、一月の計は朔にあり、一日の計は鶏鳴にあり」から来ているという説と、中国の「月令広義」の中にある四計（生活を充実させる為の4つの計画）、「一日之計在晨（一日の計は朝にあり」、一年之計在春（一年の計は春にあり）、一生之計在勤（一生の計は勤勉さにあり）、一家之計在身（一家の計は身（健康・身の振り方）にあり）」から来ているという説がありますね。

因みに、ご存知のように元旦とは元日の朝のこと、元日は1月1日終日のことですから、この言葉を遂行する為には、一年の計は元日の朝の内に立てないといけないということになります。

初日の出を拝んで一年の計を立てる、という行為は波動がとても高いものですから、お勧めしたいですし、確かに、年頭にその年の目標を決め、計画を立てるということは節目としては必要かもしれません。更に意訳としては、元旦の過ごし方でその年が決まる、というような解釈もありますが、その人の節目というのは必ずしも元旦にのみある訳でもありません。つまり、プランをきちんと立てるその時期はその人それぞれにある、ということも言えます。ただ、元旦には新たな一年の始まりとして、一旦襟を正すという意味で、そのような機会を設けましょうということなのではないでしょうか。

大切なことは、元旦に限らず、自分の生き方を計り直すという姿勢であり、それにより、いつでも運気を上げることは可能です。

注意：魔女ともえが述べる内容はチャネリングによるひとつのサジェスチョンです。